

論述ブースト No.18

薬物依存・アルコール依存を論じる

—— 疾患モデル・当事者支援・社会復帰を3軸で

目標：薬物依存・アルコール依存を「道徳的失敗」ではなく「脳の疾患」として論じる力を養う。疾患モデルの科学的根拠・当事者の権利と支援・社会復帰への道筋を3軸で構造的に論証できるようにする。

授業の仕掛け（直感への衝撃）

導入：「薬物依存は意志の弱さですか？」→「違う」と答えても論証できない生徒が多い。依存症は「線条体の報酬系が薬物によって書き換えられた状態」という神経科学的実体があり、意志力だけでは克服できない。

核心：依存症の3軸：①疾患モデル（脳の報酬系の変容・Jellinek モデル） ②当事者支援（ホームリダクション・自助グループ） ③社会復帰と社会的スティグマの除去

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 薬物依存・アルコール依存・疾患モデルで合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

薬物依存・アルコール依存・疾患モデルでは、疾患モデル・当事者支援・社会復帰の根拠が答案の質を大きく左右します。

② 薬物依存・アルコール依存・疾患モデルで採点者が見ているポイント

「依存症を疾患として位置づけ当事者支援と社会復帰を論じた答案」が採点者に「医学的視点がある」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所